

ハザードマップはそろそろ紙の地図を卒業する頃ではなからうか？

「動画で理解！ わが家のハザードマップ」で提供する次世代の災害ハザード情報

株式会社楽しいテレビジ 代表取締役 真野 栄一

梅雨の末期、ゲリラ豪雨、台風。これから迎える夏の季節は、水害に気を配らないといけません。自然災害を100%避けることは難しく、事前にその土地のリスクを理解して、有事に何をすべきかを指し示してくれる。これがハザードマップです。

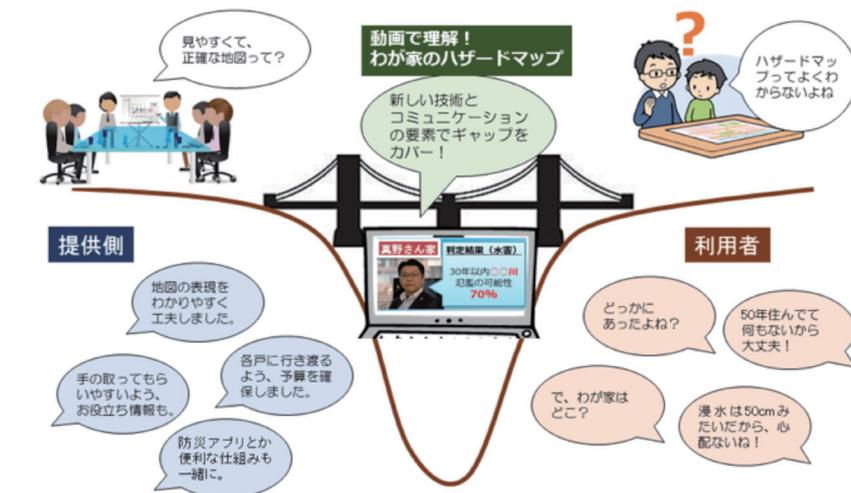
● ドライブマップはなぜ廃れたのか？

さて、いきなり話題変わりますが。知らない土地をドライブするのに、ドライブマップを引っ引きでナビしてたのは今や昔。今では、カーナビが最適な経路を見つけて音声で道順を案内してくれます。おかげで、ドライブマップは過去の遺物になってしまい、私が就職した地図会社は消えてしまいました。

なぜ、紙のドライブマップは衰退してしまったのでしょうか。

まず、現在位置がわかりにくいこと。地図は今いる場所が分からないとお手あげです。また、現在位置が分かったとして正しい道順を特定できるのかという問題があります。最短距離だけど山道を進むのか、回り道だけど幹線道路に行くのか。これは経験がモノをいう世界です。

そこに誰もが今いる場所が分かり、最短の道順が分かるカーナビが



登場しました。ほどなく、紙のドライブマップは衰退していききました。テクノロジーの進歩ですね。

● ハザードマップは難しい？

話をハザードマップに戻します。ハザードマップには、当然のごとく地形が表現されており、さらに浸水や崖崩れなどの災害リスクの恐れがあるエリアが書き込まれています。有事の避難先となる施設も示されています。欄外には、有事にどう対応すべきかの情報も示されています。しっかり読み込んで迅速な対応をすれば、リスクは避けられる可能性が高いように思います。

しかし、この情報をしっかり読み

込むのが難しいのです。自宅や勤務先の場所が地図上でわかれば、そこが赤の斜線で塗られていたり、そこに書き込まれた×や○の記号を見つけることはできるでしょう。しかし、それが何を意味するのかは凡例を見て判断することが必要です。

さらに、凡例を見つけてリスク内容が理解できたとしても、適切な避難ができるかどうかは別の話です。多くの場合、地図の欄外に適切な行動が例示されていて、これを読んで行動すれば大丈夫という話です。

本誌の読者の皆さまには朝飯前の作業でも、一般の方にとってはいささかハードルが高いと思いませんか。



「動画で理解！わが家のハザードマップ」における一般的なストーリーの流れ



① ウェブサイトへアクセス判定場所の住所を入力



② 見たい災害リスクをリストから選択



③ 災害時に注意すべき点全般を専門家から案内



④ リスクの判定とともに、建物の状況を選択して対策の案内へ



⑤ 立地と建物状況から総合的にリスクを判定し、近隣の避難所を案内



2017年のG空間EXPO「Geo アクティビティコンテスト」にて来場者賞とデザイン賞をダブル受賞

● 知るべきリスクを動画で伝える

このハードルを低くして、地図に詳しくない人にも正しい避難行動を動画で提供する仕組みが「動画で理解！わが家のハザードマップ」です。

住所さえ分かれば、その場所どんな災害リスクがあるのかをシステムが自動判定します。お住まいの建物の状況や家族の状況などを動画内で質疑応答すれば、その回答に応じた内容で、さらにきめ細かい災害への対応を動画で伝えることができます。つまり、視聴者の場所や条件によって、内容が異なる動画が流れるという動画サービスなのです。

このシステムのポイントは4点あります。この中で何といても「わが家のリスクに特化している」「人が動画で語りかける」という要素が最大のメリットでしょう。自分の家のリスクを有名人に語りかけてもらったとしたら、結構感激して「自分事」になるのではないのでしょうか。

地図は出てこないとはいえ、このシステムの中には地理情報システム(GIS)が存在しています。住所から緯度経度を特定するジオコーディ

 人の代わりに機械が地図を読む 情報を地図から正確に読み取り、専門家の監修により正しい対策を提供。	 わが家のリスクに特化した結論 その土地や建物特有のリスクを前提にするため「わがごと」意識が高まる。	 人が動画で語りかける 機械の冷たい対応とは違い、つい最後まで見てしまい視聴率がアップ。	 対話型で反応を返せる 自ら選択した関心あるテーマを視聴することにより、視聴率がアップ。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**専門家に自身の災害リスクと対応を語りかけてもらえるので、
情報弱者や無関心層にも有効**

ング技術。そして指定された場所のリスクを判定する空間演算機能の2つの技術要素がサーバサイドにあります。

その上で、判定結果は「対話型パーソナライズ動画」に送られます。判定結果に応じて、あらかじめシーンごとに撮影されていた動画を組み合わせ合わせてストーリーング配信するという仕組みです。

● 次世代のハザードマップ

2017年の「Geo アクティビティコンテスト」での受賞以降、ビジネスを展開していますが、弊社のパワー不足もあって、導入いただい

る組織はまだありません。本書の読者である地図・GIS業界の皆さんと一緒に、この次世代ハザードマップを紹介していけたらと願っています。ご興味がありましたら、お声がけください。



動画デモはこちらから
(Youtubeへ)

●プロフィール

真野 栄一 (まの えいいち)
株式会社楽しいチリビジ 代表取締役
1964年名古屋市生まれ。名古屋大学で地理学を専攻後、地図出版社、GISベンダ、GIS開発会社を経て現職。
株式会社楽しいチリビジ <https://chiribiz/>

